



東北大学

東北大学東北アジア研究センター公開講演会
伊達市噴火湾文化研究所・東北大学東北アジア研究センター第4回学術交流連携講演会

決断の時を迎えて

— アイヌ民族の「天災体験」と亘理伊達家中の「移住決意」 —

講演:

「噴火と津波を克服した近世のアイヌ民族」

講師: 青野友哉 (伊達市噴火湾文化研究所)

「江戸時代の亘理を復元する

—海を渡った記憶—

講師: 伊達元成 (伊達市噴火湾文化研究所)

2012年

12月1日(土)

14:30 ~ 17:00 (開場 14:00)

申込不要
入場無料

会場 **ベルエア会館**

仙台市青葉区一番町1丁目4-8
〔JR仙台駅・地下鉄仙台駅 徒歩12分〕



主催 / 東北大学東北アジア研究センター (<http://www.cneas.tohoku.ac.jp>)
伊達市噴火湾文化研究所 (<http://www.funkawan.net/>)

共催 / 東北アジア学術交流懇話会

お問い合わせ / 東北アジア研究センター事務室 (022-795-6009)



伊達成実具足



青野友哉 (伊達市噴火湾文化研究所 学芸員・文化財係長)

1972年、小樽市生。明治大学文学部卒業。1997年、伊達市教育委員会に勤務し、現在、伊達市噴火湾文化研究所学芸員。2010年、北海道大学大学院博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。専門は考古学。

【著書】青野友哉, 2011: 縄文文化と弥生文化, 甲元真之・寺沢薫編 講座日本の考古学 5 弥生時代(上), 青木書店, /青野友哉, 2011: 北の縄文—縄文の風が吹く丘, 能登健編 列島の考古学 縄文時代, 河出書房新社。

講演「噴火と津波を克服した近世のアイヌ民族」

北海道伊達市の有珠地区は江戸時代に大きなアイヌ民族のコタン(集落)があったところです。この地区の遺跡を発掘すると近世のアイヌ民族の生活を示す貝塚や鳥跡などとともに、1640年の駒ヶ岳の噴火津波の跡や1663年の有珠山噴火による火山灰などがみつかります。これらの災害の痕跡を丁寧にみることで、当時の人々の被災状況と復興の姿が見えてきます。

今回の講演では、3.11地震津波の被害を受けた方々へのエールを込めて、約350年前に北海道で起きた災害とそれを克服した歴史についてお話しします。また、伊達市が現在行っている、姉妹都市である宮城県亘理町のイチゴ農家に対する移住支援の取り組みについて紹介します。



アイヌ民族の宝刀(エムシ)



有珠4遺跡の鳥跡



近世貝塚出土の石製品



伊達元成 (伊達市噴火湾文化研究所 学芸員)

1978年、伊達市生。八戸工業大学大学院修了。2010年、伊達市教育委員会に勤務し、現在、伊達市噴火湾文化研究所学芸員。2010年、総合研究大学院大学博士後期課程単位取得退学。修士(工学)。専門は文化財科学

【著書】伊達元成[他], 陸産・海産の食料資源摂取率を人骨の炭素14年代から求める試み, 総研大文化科学研究(5), 69-80, 2009-03 / 瀧川渉, 伊達元成[他], 北海道小幌洞窟・岩陰遺跡出土人骨の年代学・形態学的検討, Anthropological Science (Japanese Series) advpub(0), 1109070001, 2011

講演「江戸時代の亘理を復元する —海を渡った記憶—」

明治3年から北海道伊達市に移住した亘理伊達家とその家臣たちは、貴重な品々を売って移住費用を捻出し、家財道具のなかから厳選したものを携えて北海道へと渡りました。

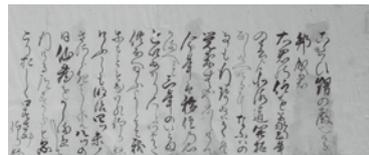
現在、伊達市で所蔵している武家文化財と呼ばれる数々の資料は、このようにして海を渡ってきたものばかりです。たとえば、この中には亘理での日常を記録した古文書も含まれています。この古文書を読み解くと歴代の領主の茶会や鷹狩、また、生き生きとした江戸時代の亘理の日常風景が復元できることがわかってきました。今回の講演では、古文書だけでなく屏風や調度品などを紹介しながら、なぜそれを携えて移住したのか、そしてそこから見えてくる当時の亘理の風景に迫ってみたいと思います。



洛中洛外図



竹雀・雪薄紋金時絵拵箱



お知恵様トリ

東北大学東北アジア研究センター公開講演会
伊達市噴火湾文化研究所・東北大学東北アジア研究センター第4回学術交流連携講演会
決断の時を迎えて
—アイヌ民族の「天災体験」と亘理伊達家中の「移住決意」—
主催 / 東北大学東北アジア研究センター・伊達市噴火湾文化研究所
共催 / 東北アジア学術交流懇話会



貞操院保子のはげまし